

2025年3月期 決算及び中期経営計画 説明会 質疑応答要旨

株式会社 平和
経営企画グループ

2025年5月16日に開催いたしました「2025年3月期 決算及び中期経営計画 説明会」における質疑応答の要旨は以下のとおりです。

Q1：アコーディア・ゴルフ取得に伴うのれんの金額と償却年数は。

A1：2025年3月期末において、のれんは約2,600億円計上している。のれんについては、企業結合日における識別可能な資産及び負債の特定、時価の算定が未了であり、取得原価の配分が完了していないため、期末時点で入手可能な合理的情報に基づき暫定的な会計処理を行っている。今後、取得原価の配分が完了次第、正確な金額が確定する予定。
のれん償却期間（年数）は20年間を想定している。

Q2：遊技機事業は2027年度に売上高760億円、営業利益210億円を計画しているが、その時のパチンコとパチスロの販売シェアのイメージは。

A2：現在、パチンコ市場は苦戦しているが、7月には「LT3.0 プラス」を搭載した機械の登場など、段階的な内規変更により3年後にはスマパチの状況も変化していると想定している。3年後の目標として、遊技機事業における販売シェアは11%超を計画している。

Q3：パチンコ事業における現状の課題と、この1年間での開発力、IP（コンテンツ）力、営業力の変化や成果について教えてほしい。

A3：最大の課題はヒット機種への創出と考えている。ヒット機種創出の構成要素として、スペックとゲーム性が重要で、ここについては大手メーカーに追いついてきているが、若年層向けIP（コンテンツ）が不足していると認識している。この課題への対応として、今期から若年層向け新規IP（コンテンツ）の投入を開始、来期以降、さらなる拡充を予定。その成果は来期、再来期にかけて出ると考えている。

Q4：今期のパチンコ市場全体の販売台数を80万台と予測しているが、他メーカーと比べて販売台数が低い予測の背景について教えてほしい。

A4：今期は7月からの「LT3.0 プラス」導入による一時的な販売台数の増加は見込まれるものの、市場ニーズは昨年に引き続きスマスロの需要が高い想定。パチンコホールの予算の取り方を見てもパチスロシフトがうかがえる。他メーカーの予測は、内規変更による市場回復への期待感の反映と推測している。

Q5：キャッシュアロケーションについて、配当を安定配当ではなく業績連動型に変更するなど、株主還元についてどのような議論がなされているのか教えてほしい。

A5：株主還元については経営陣で様々な議論を重ねている。当面の3年間はゴルフ事業のシナジー効果や利益拡大の状況を見極めつつ、資本政策も含めて株主還元策は検討課題と考えている。

以上